


## 令和2年度 さいたま市立大谷口中学校 学校関係者評価書

さいたま市立大谷口中学校

学校関係者評価委員長 野口 保仁 

### 1 学校関係者評価の実施体制

- (1) 構成人数 6人
- (2) 実施回数 2回(2回目は紙面会議)

### 2 学校関係者評価(学校関係者評価委員の意見等)

#### (1) 学校評価集計結果から

- コロナ禍において、学校は安全と学習、行事等の両立に向け、努力していた。これは校長のリーダーシップを発揮した組織的な取組が機能していると考えられる。
  - 保護者と生徒で8割を超える肯定的な評価項目は「学校が楽しい」「係・委員会活動など意欲的に学校生活を送っている」「学校行事は楽しく充実している」「あいさつや返事をよくしている」であった。また、生徒の回答で9割を超える肯定的な評価項目は「先生はあいさつをよくしてくれる、自分たちに学力をつけるよう努力してくれている、身だしなみや言葉遣いをきちんとしている、皆が気持ちよく生活できるよう生活態度などについて指導してくれている」であった。このことは、わかりやすい授業やコロナ禍で制限がある中でも工夫した行事等の実施、学校全体であいさつのできる生徒の育成に努めていることや11月から実施した保護者や地域の方とのあいさつ運動により、生徒にとって学校生活が楽しく充実したものになるように取り組んだことが良い結果につながったと考えられる。引き続き、生徒のエネルギーを発揮できる場の設定と学校行事等の充実を目指し、生徒に成功体験を味わわせ、自信をつけさせるように努めてもらいたい。
  - いじめ撲滅に向けて、校長の指示のもと教職員が「いじめはいつでも起こりうる」と共通の認識をもち、いじめの早期発見・早期解決・再発防止の指導体制を整えていることや各学期始めの「心と生活のアンケート」と学校独自の「あなたに関するアンケート」を行い、調査結果をもとに全校あげて実施している生徒に寄り添う面談を通して、悩みやつまずきなどの解消に今後も努めてほしい。そして何より学校と保護者の連携を深めてほしい。
  - 昨年からの新しい評価項目として、親子関係を問う設問では、生徒は「保護者は自分のことを理解してくれている」で肯定的な回答が9割を超えたのに対し、保護者は「わが子のことをよく理解している」について8割であった。地域の代表として喜ばしい結果ではあり、さらに地域の大人として関われる支援を継続しながら10割を目指すと共に、保護者の方にはこの結果を自信にしてわが子を見守ってほしいと願う。
  - 保護者・生徒に共通して数値が低い評価項目として「家庭ですすんで予習や復習をしている」であった。学校の実態として学力の向上は重要課題の1つであり、学校は指導方法の工夫を図り、全員にわかる喜びを味わわせるなど自己肯定感の育成に努めるとともに、家庭の教育力の充実を保護者に呼びかけるなど、家庭での望ましい生活習慣・学習習慣を促す必要がある。また、タブレット端末を活用した授業を積極的に実践するなど、時代を見極め、ルールを策定するとともに、前向きに取り組んでほしい。
- (2) 教職員が自信をもって生徒に指導していることが伺えるので、働き方改革の視点をもちつつ、健康で明るく元気に職責を果たしてほしい。

#### 学校関係者評価を受けた学校の対応

- 保護者や地域の方からのご意見を真摯に受け止め、一つひとつを着実に対応していくとともに、現在の学校の取組をお便りはもちろん、ホームページや安心メールなどを活用して積極的に広報する手立てを工夫し、一段と信頼関係を強化していきたい。
- 家庭での望ましい生活習慣・学習習慣の形成を促すために、教育研究所等から発信されるデータや情報などを活用し、家庭学習の習慣化を図る工夫が必要である。授業では、基礎学力の不足している生徒が見られるため、「できた」「わかった」など学ぶ楽しさを体得できるよう、タブレット端末などを活用した指導の工夫に努め、生徒が主体的に学習に向かう意欲を高めていきたい。
- 目指す学校像・生徒像・指導の重点及び「夢や希望が持てる生徒の育成」に合わせた、より本校の実態にあった学校評価につながるよう、学校関係者評価委員との連携を深めながら検討していきたい。

さいたま市立大谷口中学校長 柳澤 登紀男 